

鹿屋伝

KANOYADEN

「かのや風土記」
に寄せて

鹿屋の風土は、先人たちが紡いできたものが今に伝わり形成されてきました。そういった歴史や文化をまとめた「かのや風土記」を編さん中です。今号ではかのや風土記の発行に合わせ、現代に伝わる「地名」「方言」の2つのテーマで本市の歴史などに触れます。これを機に、周りに伝わる名前や言葉について関心に向けてみませんか。

1956年に百引村と市成村が合併する際に、新たな町名を公募し「輝北町」「西大隅町」「百市町」の3つで住民投票を行った結果、輝北町に決定しました。古来よりこの地域は優良駿馬の産地の総称である「驥北」と呼ばれており、これに常用漢字の「輝」をあてて輝北町となりました。

平安時代中期に書かれた辞書「和名類聚抄」に鹿屋の文字が記されています。「鹿屋」の由来は①古来より南九州地方に定住した種族といわれる熊襲の首長名「鹿文」から②大隅地方に多く生えていたとされる植物「茅」が転訛した③昔は鹿が多く生息していたからといった3つの説があります。



大隅国風土記には「串卜」と書かれており、和名類聚抄には「串伎」、その写本である高山寺本和名抄には「串占」と記載があります。その昔、国を作った神様がこの地を調べたところ、鬚梳神が住む

地ということで「鬚梳(久西良村)」と名付けられたという言い伝えがあります。1889年の町村制施行により、串良は西串良村と東串良村に分かれ、1932年の町制施行で西串良村が串良町となりました。

1884年に祓川、中名(北田町などを中心とした地域)、田崎、高須の4村が合併し鹿屋村と改称。その後、鹿屋町となり1941年に大始良村、花岡村と合併し鹿屋市制へ移行の後に高隈村と垂水町の一部を編入しました。2006年に1市3町が合併して現鹿屋市となります。

790年代に編さんされた「続日本紀」には「始羅・始羅」と書かれており、その後「始羅」「始良」と記されるようになります。町村制実施により上名村、麓村、下名村が合併し始良村が成立。しかし、大始良や始良郡との混同を避けるために1947年に吾平山上陵や、神武天皇の妃である吾平津媛の漢字をあて、吾平町となりました。ちなみに、始良郡(始良市)はもともと始羅郡と書かれていましたが、始羅と誤用され今に至るといわれています。

地名

私たちの名前に様々な意味や由来があるように「地名」にも先人たちの思いや歴史があります。地名を調べることで、土地の変遷や当時の風景を知ることができます。

大字・小字

住所における「鹿屋市〇〇」の〇にあたる部分は大字と呼ばれていたので、江戸時代の村を継承した地名が起源とされています。

大字をさらに細分化したものを小字といい、これらの地名は土地の歴史や地形の特徴によって付けられたほか、門名をもととしたものもあります。門名とは、江戸時代に薩摩藩で行われた「門割制度」によって付けられた名称です。この制度は農家数戸を一つの「門」として農地を割り当てて租税などを課すもので、この門名が小字として残ったものもあります。

その後、明治時代に戸籍法が制定されると、小字や門名をそのまま名字とする人々も現れ、私たちの姓の起源を知ることができま

地名の由来の例

- 方角や位置から(例:坂ノ下)
 - 地形や土地の特徴から(例:大平)
 - 人工物や施設から(例:二子塚)
 - 社寺、宗教、信仰から(例:石佛)
 - 官職名や役所名から(例:国司)
- そのほかにも、時代などによって漢字が変化した地名もあります
- 【例】志々女↓獅子目
狭門・狭戸↓瀬戸



小字は市制施行や合併などにより廃止が進められ、現在は残っていない地名も多くありますが、地元や年配の人々は今も古い地名で呼ぶことがあります。

今はあまり使われなくなった小字ですが、まちを歩いていると古い地名を目にすることがあります。ぜひ地域に根付いた今も息づく古の地名を探してみてください。



難読地名へらぶ

小字には初見では読めない地名もたくさんあります。皆さんはいくつ読めますか？

- ①生栗須(串良地区)
- ②白寒水(串良地区)
- ③上別府(高隈地区)
- ④辰喰(輝北地区、串良地区)
- ⑤愛宕(輝北地区)
- ⑥名主(吾平地区)